

『哲学の探求』第二十二号刊行にあたって

第二十二回全国若手哲学研究者ゼミナールは、本年七月十六・十七日に、約三十名の参加を得て、静岡県下田市の黒潮荘にて行われました。本誌はそこで行われた研究報告を集大成したものです。

全国若手哲学研究者ゼミナール（通称「若手ゼミ」）は、哲学・思想史領域を専攻する若い研究者（主に大学院生）が、日頃の研究成果を発表し論じあう研究・交流の場として、毎年一回、夏に一泊二日の合宿形式で開催されています。といいますが、運営に当たる恒常的な組織があるわけではなく、毎年「今年限り」として開催され、翌年に開催するかどうかはその年の参加者の総意で決められます。開放的で自由な雰囲気、自立的な運動を目指し、資金も参加者の自己負担でまかなわれています。もちろん特定の思想的・理論的立場はいっさい前提としていません。

今年の若手ゼミは、あらためて全国の大学に呼びかけた結果、ちよっぴりですが参加者の所属大学に広がりがみられました。参加者間の議論の更なる活性化を目指して、ディベート&ディスカッションという新企画も加わりました。メイン・イベントであるシンポジウムは、昨年を引き続き、中堅の研究者に若手が挑む形で行われました。

大学院生の研究スタイルがタコつぼ化していると揶揄されて久しいですが、こうした若手ゼミの試みが、大学院生の引っ込み思案を打ち破るきっかけになることを願っています。そして、このユニークな哲学運動の輪が、さらに大きく広がっていくことを望んでやみません。

一九九四年十月

第二十二回全国若手哲学研究者ゼミナール世話人一同